

平成27年度
事業報告書

平成27年4月 1日から
平成28年3月31日まで

公益財団法人
タカミヤ・マリバー環境保護財団

概 況

公益財団法人タカミヤ・マリバー環境保護財団は、平成23年6月10日に新公益法人としての認可を受けて以降、5回目の決算期を迎えました。

新公益法人の定款では、事業目的をよりわかりやすく、現実的な表現に改めておりますが、財団としての理念は、財団設立当時の寄付行為と基本的内容は大きく変わったところはなく、より公益性、公平性に水辺の環境に特化した公益財団として実践してまいりました。公益財団5年目の27年度も発足時より実施しております事業方針を変更することなく実施致しました。

公益目的事業

- I. 河川・海岸の美化推進事業
- II. 水生生物の生態研究及び保護・育成事業及び海域の水産資源保護増殖事業
- III. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあい事業を行う団体に対する助成事業
- IV. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあいに関するシンポジウム・環境教育
- V. 北九州市環境ミュージアムの運営

I. 河川・海岸線の美化推進事業

1. 市民参加による水辺環境美化事業

27年度は、財団主催、及び共催により、地域住民や小学校児童など、一般市民も参加しての河川・海岸線美化清掃事業を13回実施しました。

内訳は、紫川、大蔵川、金山川を中心とした年間7回の河川清掃活動。
小倉日明海岸、門司海岸、若松響灘海岸を中心とした6回の海岸線の美化清掃活動を実施しました。

2. マリバー1号による事業

マリバー1号は2トンパッカー式塵芥収集車で街宣設備を有し、乗務員1名により月曜から金曜までの毎日、北九州市内の海岸線での、市民への環境美化の呼び掛け運動、及び乗務員による清掃、ゴミ収集及び処理並に広大な北九州市内海岸部に投棄される不法廃棄物の監視、担当部署への通報活動を続け、土・日祭日等にはマリバー2号ともに、河川愛護団体等の行う美化推進活動の支援、水辺環境美化への啓発を行いました。

平成27年4月1日から平成28年3月31日にかけて実施致しました内容は次のとおりです。

① 事業実施期間

平成27年4月1日（水）～平成28年3月31日（木）

②実施地域（マリバー1号巡回地域）

- ア. 脇田海岸エリア
- イ. 響灘エリア
- ウ. 戸畑・若松エリア
- エ. 日明エリア
- オ. 砂津・末広エリア
- カ. 太刀浦エリア
- キ. 門司港・和布刈エリア
- ク. 新門司北エリア

③事業内容

- (1) 北九州市内の海岸線パトロール（河川美化清掃・ゴミ持ち帰り啓発）
- (2) 水辺環境愛護団体等支援

④活動状況

- (1) 北九州市内の海岸線パトロール
マリバー1号（中型収集車）により、北九州市域内の海岸線を巡回する事を目的とし、パトロールルート、乗務員の勤務スケジュール策定や巡回頻度の検討を行いました。
各エリアにつき月／2回から4回程度の巡回を行うことを、計画・実施いたしました。
- (2) ゴミ不法投棄監視・海岸線護岸等の破損の監視
巡回を行う際に大型ゴミの不法投棄の監視、通報及び海岸線護岸の破損事故の監視、通報を行いました。
- (3) 水辺愛護団体等支援
下記の通り、水辺愛護団体及び北九州市内の水辺に関する活動を行っている団体が主催するイベントへの出動を行い、ゴミ収集やマナー啓発・指導等の支援を行いました。

平成27年	4月18日	紫川アユ放流祭
平成27年	7月26日	若松区響灘 大清掃
平成27年	9月13日	脇田釣り栈橋 漁港 清掃
平成27年	9月 5日	八幡東区大蔵川 清掃

平成27年	9月30日	門司区新門司	大清掃
平成27年	10月3日	若松区響灘	大清掃
平成27年	10月4日	金山川	大清掃
平成27年	10月10日	小倉南北	紫川 大清掃
平成27年	11月1日	小倉北区紫川	ハゼ釣大会 大清掃

⑤成果

ゴミの分別行動に見られるような市民意識の高まりに加え、マリバー号の活動20年以上という実績、近年での1号、2号合同事業によって市民に広く認知していただき、多くの協力を得られるまでになっています。

3. マリバー2号による事業

マリバー2号は北九州市内の中小河川の巡回が主になる為、軽ダンプ式塵芥収集車により、街宣設備を使用し、乗務員2名にて、毎週5日、毎月2回の頻度で北九州市建設局の管理する市内49河川の巡回により、市民への環境美化の呼びかけ、乗務員による清掃ゴミ収集及び不法投棄、護岸施設等の損壊の確認・通報を行いました。

平成27年4月1日から平成28年3月31日にかけて実施致しました内容は次の通りです。

① 実施期間

平成27年4月1日～平成28年3月31日

② 実施地域

北九州市内河川流域

- 1 城内川 2 砂津川 3 神嶽川 4 紫川① 5 紫川② 6 小熊野川
- 7 長行山田川 8 紫川③ 9 合馬川 10 紫川④ 11 東谷川
- 12 立花川 13 井手浦川 14 母原川 15 茶屋川 16 志井川
- 17 村中川 18 大川 19 羽山川 20 清滝川 21 奥畑川 22 櫛毛川
- 23 相割川 24 竹馬川 25 朽網川 26 貫川 27 大野川 28 田原川
- 29 長野川 30 板櫃川 31 槻田川 32 天籟寺川 33 撥川 34 割子川
- 35 建郷川 36 中子川 37 金山川 38 新延川 39 白木川 40 黒川
- 41 金剛川 42 笹尾川 43 堀川 44 新々堀川 45 金手川 46 江川
- 47 坂井川 48 曲川 49 寺田川 50 原田川 51 相川 52 熊本川



③事業内容

- (1) 北九州市内の河川巡回パトロール（河川美化清掃・ゴミ持ち帰り啓発）
- (2) 河川愛護団体等支援

④活動状況

- (1) 北九州市内の河川巡回パトロール

マリバー2号（軽四輪ダンプゴミ収集車）により、北九州市内の1級河川から準用河川の49河川を全て巡回する事を目的とし、パトロールルート、乗務員の勤務スケジュール策定や巡回頻度の検討を行いました。

その結果、各河川につき月／2回程度の巡回を行うこととし、北九州市との委託契約は144日ですが、財団独自に年間約200日間の出勤を計画し、結果として、ほぼ計画通り、210日を超える巡回を実施致しました。

- (2) ゴミ不法投棄監視・河川護岸等の破損の監視

マリバー2号（軽四輪ダンプゴミ収集車）により、巡回を行う際に大型ゴミの不法投棄の監視、通報及び河川の破損事故の監視、通報を行いました。

- (3) 河川愛護団体等支援

下記の通り、河川愛護団体及び北九州市内の水辺に関する活動を行って

る団体が主催するイベントへの出動を行い、ゴミ収集やマナー啓発・指導等の支援を行いました。

平成27年	4月18日	紫川アユ放流祭
平成27年	6月6日	戸畑区天籟寺川清掃
平成27年	9月5日	八幡東区大蔵川 清掃
平成27年	9月30日	門司区新門司 大清掃
平成27年	10月4日	金山川 大清掃
平成27年	10月10日	小倉南北 紫川 大清掃
平成27年	11月1日	小倉北区紫川ハゼ釣大会 大清掃

⑤成果

ゴミの分別行動に見られるような市民意識の高まりに加え、マリバー号の活動20年以上という実績、近年での1号、2号合同事業によって市民に広く認知していただけるまでになっており、多くの協力を得られるまでになっています。又北九州市の水環境課との連携により、北九州市の河川環境の向上に寄与しております。

II. 水生生物の生態研究及び保護・育成事業及び海域の水産資源保護・増殖事業

この事業は、紫川の生態系の研究、アユの研究・保護、北九州市内でのメダカ・ホタルの保護及び、北九州市周辺海域の水産資源保護・育成を行う事業です。北九州市の豊富な自然環境の象徴として、小倉南区・小倉北区を流れ、響灘に注ぐ紫川があります。この川は、田園部と都市中心部を縦断しており生態系を考える上でも重要な価値があります。その中で、仔アユ放流につきましては、27年度も例年通り実施しました。

地元住民や小学生など多くの市民参加によって開催され、今では地域の環境保全のシンボルとして位置付けられています。また、アユは最も象徴的な指標です。当財団は過去長きにわたり紫川において、降下・遡上の状況について調査を行って参りましたが、27年度は、降下仔アユの調査につきましては、北九州市の調査が行われましたので、財団では、産卵場所の造成と産卵数について調査をいたしました。

1. アユの生態研究・保護・育成事業

4月に恒例となっております「紫川アユ放流祭」にて、福岡県より、ご協力頂いた福岡県産の仔アユ1万尾を放流しました。

また、27年度はそのアユの「産卵状況調査」と「産卵場所造成」の2項目について実施しました、今年度の降下仔アユ調査については、今年度行われまし

た、北九州市建設局の「降下仔アユ」調査と過去の調査によりその傾向について考察いたしました。

アユの産卵床造成にあたっては、水産庁の「アユの人工産卵床のつくり方」に準じ、固くなった河床の瀬をV字形に耕耘することにより、渇水時にも対応できる産卵床の創出を計画しました。なお、作業はクワやスキを用いた手作業としました。人工産卵場の造成場所は、過去に産卵が確認された篠崎大橋下流域と、篠崎橋下流域で実施しました。

人工産卵床を造成する直前に、アユの産卵状況の把握を行いました。アユは白い波が立つ程度の瀬で産卵を行うことから、産卵床の造成実施前に瀬周辺部で箱メガネを用いてアユ卵塊の確認をしましたがアユの卵塊は確認出来ませんでした。時期的にやや早かったものと推測されます。

今年度は北九州市により流下仔アユ数が実施され、今年度の仔アユ流下総数は約160万尾と推測されている。取水停止の時間帯は例年と異なり0時～3時に変更となり、流下数のピーク時刻も2時～3時となっている。今年度は流れが停止する取水停止時間帯に流下仔アユ数のピークがみられる結果となっています。

表-1 これまでに実施された流下仔アユ調査結果の概要（参考資料）

【平成27年度 紫川生態系調査 北九州市建設局 H28年1月 概要版より】

	項目	平成19年	平成23年	平成25年	平成26年	平成27年
調査方法・条件等	実施者	(公財)タカミヤ・マリバー環境保護財団	北九州市	北九州市	(公財)タカミヤ・マリバー環境保護財団	北九州市
	調査期間 ^{注1)}	10/11～12/11	11/14～12/13	11/1～12/21	10/16～12/12	10/22～12/4
	調査回数	7回 (週1回の頻度)	3回	8回 (週1回の頻度)	8回 (週1回の頻度)	7回 (週1回の頻度)
	調査地点 (仔アユ)	2地点： 取水口 左岸魚道(降下用)	2地点： 取水口 右岸魚道 (堰越流部は流量のみ)	4地点： 取水口 堰越流部(左岸) 堰越流部(右岸) 右岸魚道	4地点： 取水口 堰越流部(左岸) 堰越流部(右岸) 右岸魚道	4地点： 取水口 余水吐け 堰越流部(左岸)右岸魚道
	調査時間 ^{注2)}	17時～翌朝7時	18時～翌朝6時	17時～翌朝7時	17時～翌朝7時	17時～翌朝7時
	取水ポンプ停止時間帯 ^{注3)} (停止期間)	停止なし	停止なし	21時～翌0時 (10/2～12/5)	23時～翌2時 (10/24～12/5)	0時～3時 (10/22～12/4)
	調査結果	流下開始時期	10/11～10/17	—	11/1以前	10/16以前
最大流下尾数 (調査日)		1.8万尾 (11/20)	3.1万尾 (11/28)	33万尾 (11/8日)	8.1万尾 (11/6)	6.5万尾 (11/2)
取水口への迷入率 (最小～最大)		95% (84～100%)	50% (5～61%)	76% (12～91%)	94% (68～100%)	38% (18～64%)
推定総流下仔アユ尾数		32万尾	170万尾	760万尾	110万尾 ^{注5)}	160万尾
流下時間帯 (ピーク時刻)		22時～1時 (0時)	22時～2時 (0時)	23時～4時 (1時)	21～22, 2～3時 (22時)	1時～4時 (2～3時)

2. メダカ・ホタルの保護

メダカ・ホタルの保護につきましても、市内各所で助成先団体を中心として、ご協力いただいているビオトープを中心としての調査や増殖事業を行いました。放流種につきましては、同一水系による種に限定する等、生態系に充分配慮し、遺伝子レベルで地域の固有種が守られるよう、場所・方法を選定して行いました。

3. 水産資源保護・増殖事業

北九州周辺の海域水産資源保護・増殖につきましては、海水魚の稚魚の放流を市内各所で行い、資源の枯渇を食止め、保護・増殖に努めました。特に生態系に配慮し、クロダイ、ヒラメなどの周辺海域の固有種を放流いたしました。

Ⅲ. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあい事業を行う団体に対する助成事業

当財団では、市民や環境保護団体の皆様と協力しあい、より美しく、自然豊かな北九州市の水辺環境づくりに取組んで行くために「クリーン・マリバー・ネットワーク」運動を提唱しています。一人一人の力だけでなく、また一団体の活動だけでなく、大きなネットワークとして盛り上げていこうという事業です。このため、当財団では環境保全や水生生物保護などに関するPRや、事業活動を積極的に推進する一方、関係団体の活動にも資金援助や協力をさせていただき助成金制度を設けています。

この制度の愛称を“マリバーエイド”と呼び、当財団の趣旨に沿った事業の実施を目的として活動実績を有し、北九州市に所在を置く任意団体、又は有志の調査・研究グループ（自治会、子供会、学校を含みます。）を対象としております。今年度も55団体、56事業に対し助成を行いました。

平成27年度分類別助成事業

①河川環境美化・清掃事業及び河川愛護団体との協力、ならびに支援事業

- (1) 河川 北九州市内の河川（主として紫川）
- (2) 区間 北九州市内域の全区間
- (3) 助成団体 18団体
- (4) 合計助成金額 2,462,104円

②水辺の自然と青少年とのふれあい事業

- (1) 事業概要 キャンプ教室・釣り大会・その他自然と親しむ水辺でのイベント
- (2) 助成団体 13団体

- (3) 合計助成金額 1, 750, 000円
- ③ 水生生物の生態研究並びに保護・育成事業
 - (1) 習性研究・遡上数調査
 - (2) アユの保護・メダカ・ホタル飼育
 - (3) 助成団体 12 団体
 - (4) 合計助成金額 1, 420, 000円
- ④河川・海域の水産資源保護・増殖並びに沿岸域の環境美化事業
 - (1) 北九州市内の稚魚放流 (主として黒鯛)
 - (2) 北九州市沿岸域の環境美化・清掃
 - (3) 助成団体 2 団体
 - (4) 合計助成金額 250, 000円
- ⑤その他
 - (1) 環境教育事業
 - (2) 海岸線緑化他
 - (3) 助成団体 11 団体
 - (4) 合計助成金額 1, 578, 640円

総合計 55 団体 56 事業
7, 460, 744円

IV. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究増殖、水辺の自然と青少年とのふれあいに 関するシンポジウム・環境教育

この事業は、公1、公2、公3の事業内容をより、一般市民へ広めていくために開催するシンポジウム、及び同様の主旨での子供たちへの環境教育活動を行う事業です。

シンポジウムは、毎年1回市民に対して、環境保全の必要性を訴える啓発活動の一環として、毎回、環境に関するテーマを設定し、テーマに沿った特別ゲストパネリストとともに、一般市民の方、環境問題に取り組んでいる団体、現在、地域で子供たちに対する野外体験活動を行っている団体を招いて開催いたしております。今年度は特別講演として、アルピニスト 野口健 氏の講演を行いました。

1. シンポジウム

◇日時：平成27年12月5日（土） 13:00～16:30

◇場所：北九州国際会議場 メインホール

◇参加：600名

◇行程

①開会

②高宮理事長あいさつ、北九州市北橋市長あいさつ

③助成先紹介、目録贈呈、マリバー大賞発表

④北九州市公害克服に関する対話及び記録映画上映

環境ミュージアム館長 中園哲氏

北九州夫人連絡協議会会長 加藤美佐子氏

⑤北九州市立大学生による北九州市の公害の歴史研究発表

⑥第20回記念特別講演 アルピニスト 野口健 氏

「富士山から日本を変える」

当日は、予想を超える盛況で、国際会議場のメインホールに600名を越える市民が来場され、盛大にシンポジウムを開催いたしました。

財団の理事長挨拶、続いて、北九州市の北橋市長にご挨拶を頂きました。

その後、助成金受給団体の活動紹介及び、代表団体へ助成金の目録贈呈を行ない続いて、マリバー環境大賞が発表され、北九州でも有数のホテル飛翔地に成長をした香月黒川地域で、長年に亘り環境保護並びにホテルの育成・放流等を行っている「かつき黒川ホテルを守る会」を表彰いたしました。

次いで、北九州の公害克服の歴史について、北九州夫人連絡協議会の加藤美佐子会長と北九州市環境ミュージアムの中園哲館長に対談、その後、当時の公害の記録映画「青空がほしい」の上映を行いました。上映後は、その歴史を次世代に引き継ごうと研究を行っている北九州市立大学の皆さんに、その研究成果と今後に向けた抱負について報告を頂きました。

最後に特別講演とアルピニストの野口健さんより「富士山から日本を変える」と題して講演が行われた。

講演では、野口さん自身の生い立ちから、何故登山を始めるようになったか、また、環境問題に関心を持つようになったきっかけ等について、まず話があり、その後、長年に亘る富士山の清掃登山の四方山話からや本格的な山岳登山等についてもお話を頂き、会場の皆さんも普段は決して経験することのない話もあり、ご来場の参加者は真剣に聞き入っていました。

シンポジウム全体を通して、今回は非常に多くの参加をいただいたが、途中で帰る方も殆どおらず、アンケートを通して非常に満足したという声を多く

頂きました。

2. 環境教育

① 今町小学校自然体験教室

「ふるさとの川・紫川を守ろう」

日時 7月12日(土)、13日(日)

② 大蔵小学校自然体験教室

「大蔵川の水生生物」

日時 9月6日(土)

大蔵小学校と協力をして「大蔵川環境教育」この事業は、授業の一環として、大蔵小学校の1～6年生の全校児童が参加し、環境教育と地元を流れる大蔵川の清掃を行うイベントです。

川の清掃の前、大蔵小学校の児童に、環境ミュージアムのプログラムで環境について学んで頂きました。

③ 西日本つり博覧会環境教室

「川、海の水生生物と環境問題」

日時 3月19日(土) 3月20日(日)

来場者に環境の大切さを訴えるチラシを配布し、子供たちに環境の大切さをわかり易くせつめいした。

V. 北九州市環境ミュージアムの運営

1. 利用者数

総来館者数は、平成27年度は131,092人で前年比98%（平成26年度134,124名）と昨年を下回る結果となりましたが、団体については平成27年度514件で前年比111%（平成26年度464件）と、上回る結果となりました。これらについて考察すると、来館者数について、前年を下回った要因として、昨年度のみ開催された九州発開催の全国餃子祭り in 北九州の影響が挙げられます。団体については市内の一般団体と市外の小学校の増加が大きく、市内児童の減少傾向と高齢化による一般団体の増加が考えられます。その他、集客努力として毎年恒例の「未来ホテルデー」の開催や、昨年度より始めた「ちょいエコホリデー」など、当館の独自のイベントや、地域と連携した「東田サマースクール」や「世界一行きたい科学広場」を実施しました。今後も東田周辺地域と連携し、点ではなく面で集客を図るイベントを継続してい

くとともに、来館団体の傾向に合わせた広報等を行えるよう努めます。

2. 自主事業

①青空学

タカミヤ・マリバー環境保護シンポジウムにおいて講演の一部として戸畑婦人会自主制作公害記録映画「青空がほしい」を上映、北九州市立大学との共同研究発表などを実施。その他、館長をはじめとした勉強会、公害当時を知る方への協力要請等を継続して実施。

②未来ホテルデー（6/13、14）

昨年度は東田まつりと共催での単日実施であったが、今年度は通常通り2日間を単独で実施した。市民団体の活動紹介をはじめ、参加者で作る巨大手形アートや、映像祭の実施、エコ工作体験など、様々なイベントを展開し、8,186名が来場し、大変なにぎわいを見せました。

④ ちょいエコホリデー

ひとつのテーマに沿って子供から大人まで環境について考えてもらうきっかけづくりと、テーマに関わる団体の市民活動発表の場として開催した。8月は「温暖化」、11月は「読書の秋」、3月は「おもちゃ」をテーマに行い、合計1,744名の方が来館された。今後も、年数回テーマを変え実施していき、市民がより利用しやすい環境にし、市民活動の発表の場を提供しました。

④多彩なイベント

夏休み宿題企画やクリスマスリース、もちつき・年越しそばづくりなど季節感のあるイベントを実施。その他、石鹸づくりや染物講座、料理教室、ドキュメンタリー映画の上映、エコ工作、科学実験など、さまざまな角度から環境について考えることができるイベントを実施しました。

3. 地域との連携

①東田サマースクール

当館を含めた東田地域にある3つの博物館（北九州市環境ミュージアム、いのちのたび博物館、北九州イノベーションギャラリー）を連携させたイベント「東田サマースクール」を昨年度に引き続き実施した。夏休みの高学年児童を対象に4日単位で、いのちのたび博物館、北九州イノベーションギャラリーと当館の3つの施設で連携し、各館が1日ずつ担当して特色あるプログラムを提供した。楽しく遊びながら環境について学ぶ場を設け、参加者からも大変よい評価を頂きました。

③ 世界一行きたい科学広場

3館とSSH指定校、九州工業大学や北九州高専らと協同で「世界一行きた

い科学広場2015 in 北九州」を実施。本物の科学にふれる機会とその楽しさを伝えた。当館は、水を使った、おもしろ実験を実施。夏休みの自由研究のヒントになる実験を行い、2日間合計で計1,910名を集客しました。

④ 東田地域への協力

八幡東区まつり起業祭の一環として行われる「八幡東田ウルトラ25時間駅伝」に連合チームとして参加。3館や八幡東区の企業との連合チームの連絡調整役の遂行、地域の美化活動として、毎年恒例の「社長公認堂々ごみ拾い」や、東田3館周辺を毎月第3水曜日に自主的に清掃する「5分間清掃」など、地域と一体となった運営をおこないました。また、地域住民への積極的な協力として当館での町内会や茶話会の開催を行った。また、2016年5月にはG7エネルギー大臣会合が北九州市で開催されるため、当館も盛り上げに協力します。

4. 利用促進・サービスの質向上、

① オーダーメイドのプログラム提供

受け入れ団体については市内外問わず、綿密な打ち合わせを行い、先方のオーダーに合わせた環境学習プログラムの提供を行いました。また、継続実施している、教育委員会主催の環境体験科の受け入れや、環境修学旅行、環境局主催の古紙リサイクルバスツアーやプラスチックバスツアー、行政視察など関係部署との連携を図り、円滑な対応を行いました。

② 環境学習コンシェルジュ業務

環境みらい学習システム推進業務委託として、環境学習コンシェルジュ業務を遂行。環境学習における様々な問い合わせに対応するとともに、これまで蓄積したノウハウをもって北九州市内の環境学習ツアーの提案を行いました。また、環境ミュージアム、いのちの旅博物館、響灘ビオトープを連携させたバスツアーや環境情報を集約したタブロイド紙を発行しました。

③ 新たな施設利用

港湾空港局のポスター投票や巡回展示、市民団体と共同でペットボトルのキャップでできた壁画を展示するなど、展示スペースや館内の有効活用を行い、より多くの方の目に触れる機会を提供しました。また、エコハウスでは引き続き、スマートコミュニティ創造事業の一環として本田技術研究所の共同実証である、日本初の燃料電池自動車による外部給電実験（ビークルトゥホーム）を実施した。また、お手軽小作やちょいエコホリデーなど、イベントでの会場として積極的に利用した。その他、北九州市と本田技術研究所の共同実証である、日本初の燃料電池自動車による外部給電実験（ビークルトゥホーム）を行うなど、展示場としてだけではない幅広い利用を行いました。

5. ガイドの育成

ガイドの育成として、北九州市における市民環境力の向上に寄与できるよう、様々な視点で研修を行った。専門知識を有する職員が他の職員への情報共有を行うことで精錬された業務の遂行と効率化を図るとともに、その知識を共有し、専門でない分野についての知識向上に努めた。また、OJTとして北九州里山トラス会議との協働で、放置竹林の整備について、現場での活動と通してその重要性を学んだ。高齢化社会への対応として、森フォーラム運営協力を行いました。

6. 維持管理、安全管理、その他

重大な館内事故・事件等の発生はなかったが、台風15号による影響で臨時休館、南側壁面に設置していた看板が落下、その下の木が倒れるなどの影響もありましたが、けが人等はございませんでした。その他、スタッフによる日常点検、定期点検等を確実にを行い、運営に支障を来す機器トラブルもなく、安心・安全な運営を行った。また、避難訓練や救命救急講習を実施し、有事の際の対応できるよう努めました。その他、設備の老朽化が顕著になってきており、不具合が多くなっているため、迅速な状況把握と対応を行っていきます。

7. 平成27年度事業計画(提案)の進捗状況

事業計画の内容	進捗状況
①青空学 情報の収集および整理ならびに公開できる情報から順次発信する。	①北九州市立大学との共同研究の成果をタカミヤ・マリバー環境保護シンポジウムで発表。その他、収集した情報を公開できるよう整理。
②ちよいエコホリデー（継続） 未来ホタルデーを年1回、ちよいエコホリデーを年3回実施する。	②左記の通り実施。未来ホタルデー8,186名、ちよいエコホリデー3回合計1,744名 総計9,930名を集客した。
③3R促進関連講座 有料にて月3回実施する。	③紙すき、古布ぞうりづくりなど43回実施した。
④エコ生活講座 メニューを変えて12回実施する。	④せっけん講座、ハーブ講座、草木染めなど15回実施した。
⑤科学実験 年6回実施する。	⑤水のおもしろ実験、電磁石工作など、7回実施した。
⑥エコツアー・グリーンマップ	⑤ 左記の通り実施した。

<p>年6回実施する。</p> <p>⑦料理1講座 対象を変え毎月実施する。</p> <p>⑧月替わりお手軽工作 内容を変えて毎月2回実施する。</p> <p>⑨幼児・親子向け講座 お話し会を試行、無料で毎月1回実施する。</p> <p>⑩短編映画制作・上映 東田シネマに形を変え毎月実施する。</p> <p>⑪ガイド講座 伝える技術講座を実施する。</p> <p>⑫こども環境リーダー 自らが率先して環境活動行う人財を育む講座を実施する。</p> <p>⑬参加者との協働菜園・グリーンカーテン作り 27年度は企画を実施する。</p> <p>⑭ナイトミュージアム 27年度は企画を実施する。</p> <p>⑮オリジナル商品開発 27年度は販売に向けた試作品を作成する。</p>	<p>⑦親子女性、男性と対象を変えて19回実施した。</p> <p>⑧左記の通り実施した。</p> <p>⑨左記の通り実施した。</p> <p>⑩左記の通り実施した。</p> <p>⑪年長者大学での講義の一環として実施した。</p> <p>⑫夏休み期間中に実施。当館オリジナルで北九州キッズエコサポーターとして認定した。</p> <p>⑬染物講座にて藍や花を植え、参加者との協働で管理し、育った植物がイベントで使用した。</p> <p>⑭「ドームシアターで星空を見よう」と題し、ドームシアターを利用してプラネタリウムを実施後、実際に夜空を見上げ星空観察会を実施した。</p> <p>⑮27年度実施に向けて左記の通り実施した。</p>
--	--